

Profile

栄養専攻教授。保健センター長。自治医科大学医学部医学科卒。群馬大学大学院医学研究科修了。博士（医学）。群馬県衛生部医務課技師として、群馬大学医学部附属病院第二内科、国立高崎病院内科、公立多野総合病院内科で、医師臨床研修。藤岡、富岡、桐生、保健予防課母子保健係。伊勢崎、安中、沼田、渋川、太田、館林、吾妻保健所勤務。保健福祉事務所長兼保健所長として、利根沼田、富岡、太田保健福祉事務所勤務。群馬県保健福祉事務所長会会長、群馬県保健所長会会長、全国保健所長会理事及び代議員。退職後、前橋市保健所長を兼務。2020年4月より現職。



学生へメッセージ

栄養専攻の教員として、学生には、栄養学とは何か、知識としてだけではなく、自分の体全体で感じるよう期待します。義務教育では、生命と食物について、料理をはじめ、いろいろな教科で学んでいて、高等学校の生物では、さらに詳細な生命科学を学んでいます。栄養は、我々が生命活動する源ではありますが、太陽からのエネルギーを植物が栄養素として蓄え、その植物を動物が摂取して、大気中の酸素とともに、エネルギーに換えています。栄養学は、植物と動物をつなぐ貴重な栄養素を科学する学問です。近年、自然科学の分野の発展は目覚ましく、スーパーコンピューターを駆使して、ゲノム解析が詳細に行われています。その結果、バイオテクノロジーの分野では、遺伝子操作によるゲノム編集が行われるようになり、人間社会に大きな恩恵をもたらしています。栄養と生命や健康との関係が、遺伝子及び生化学レベルで詳細に解明されています。この現代科学を理解するためには、生命科学の基本を理解することが必須であります。特に、栄養学は、人間の健康に直接寄与するという重要な役割があり、栄養学を修めるということで、生命にかかわる仕事に結びつきます。栄養学の応用が、人間の健康度の向上にかかわります。基本をしっかり学び、卒業後の仕事や勉強、さらに研究に結びつけられるような授業にしたいと考えています。